

遙かなる山

中部日高/ペテガリ岳東尾根～中ノ岳

年末年始山行以来、日高の地図を眺めては、このルートに想いを馳せていた。一瞬メンバーが捕まりそうになったが、やはりというかキャンセルとなり、独りとなった。それでもここは行くしかない。荷物は極力切り詰め 20 kgに収まるようにし、天気予報を見て日程を1日繰り上げ、タクシーの予約もガス缶の予約も入れ、体力の不安は仕方ないとして、あとは挑戦するだけだ。

【日程】

2019年4月10日～14日

【メンバー】栗原

【地形図】拓進・ポンヤオ
口マツブ岳・神威岳・ピリ
ガイ山・元浦川上流

【記】栗原

4月10日(水)：晴れ

「アー、だから今夜だけは君と飲んでいたい アー、明日の今頃は私日高だよ～♪」
前夜の集会後の2次会で0時を回るまで飲んでいて、今は日高の入り口に立っていると



不思議な気がするが、とにもかくにも林道ゲートに降り立ったのだ。日没まであまり時間がないが、できれば東尾根の登山口まで歩を進めたいところだ。

最初は林道に雪がなく、道は所々崩れているが、明るければ問題ない。途中からは雪が出てきた。雪に足を踏み入れた途端、不安が頭をかすめる。雪が想像以上に潜る…。ワカンで大丈夫か？しかし、林道にはまさかのトレースがり、どこかのパーティが何日前に東尾根に入ったようだ。予想だにしていなかったが、これは心強い。トレ

ースをたどると、林道が沢で途切れていた。橋がない！！渡渉場所を求めて右往左往するも、靴のまま濡れずに渡れそうなところがない。初日から靴を濡らすわけにもいかないので、意を決して裸足になる。つ、冷たい…。渡った先は雪の上、慌ててザックの上に座り、足を拭く。ズボンの裾を不本意にも濡らしてしまった。先行きが少々不安になるが…しばらく行くと、またしても橋がない。ここは幸いにも倒木がかかっており、アイゼンをつけて倒木の上を慎重に通過する。そして辺りが暗くなり始めたころ、またしても落ちた橋！川岸に降り立つ頃には完全に暗くなり、渡渉点がよく分からない。明日明るくなってから渡ることも考えるが、できれば暗いうちに早立ちしたい。ヘッドランプで沢を照らしながら、靴のままワカンを履いて渡渉する。ワカンの高さでなんとか靴に水が浸水することは防げたようだ。そしてようやく登山口についた。初日っから日高にどっぷり浸かった感があった。



4月11日(木) : 曇り朝のうち晴れのち湿雪

今日はポンヤオロマップ岳を越えるべく、早立ちだ。まだ夜が明けぬうちから急斜面を登って尾根に取り付く。尾根上のトレースは積雪で消えかけており、林道のトレースは下りのトレースだったようだ。しばらく行くとトレースは分からなくなってしまう。ワカンラッセルとなる。そのうち湿雪も降り出した。ポンヤオロマップ岳の手前で急斜面となり、アイゼンに変えると途端に潜るようになる。ポンヤオロマップ岳から先も細くて少々悪そうなのでアイゼンのまま行こうとすると、潜って全く進まない。2時間かけて結局ほとんど進まないまま、あきらめて岩陰にテントを張った。湿雪で濡れ濡れになって夜は寒く、そば降る雪とラッセルの進み具合に、不安な一夜となった。



4月12日(金) : 晴れのち雪

昨日の雪の状態から、今日は初っ端からワカンを履いて行動する。尾根は細く雪は崩れ易く、足を置くにも気を遣う。細い藪を掴みながら時間をかけて進んでいく。それでもア



イゼンよりはまだ楽だ。P1417への登りに差し掛かると尾根が広がってきてしばしラッセルに没頭できるが、p1518を越えるとまた尾根は細くなり、両雪庇気味の稜線を慎重なラッセルとなる。行程は遅々として進まない。今日も午後から風雪予報、今日中に稜線に出たいが、稜線で風に吹かれずテントを張れる所があるのか？折しも雪が降りだし、風が強まってきた。せっかく衣類が乾いてきたのに、濡れたくない。かろうじてテントを張れそうなところを速攻で整地して、中に入る。これまでの進み具合と明後日の夜か

らの天気の崩れを考えると、残念だがペテガリ岳はカットし、天気の良い明日中に中ノ岳を越えるのが妥当だろう。ペテガリ岳東尾根を登ってペテガリ岳に立たないのはなんとも間抜けだが、致し方ない。体力以上に精神力の弱さを痛感しながら、寢床に入った。

4月13日(土) : 晴れ

歩き出しが急斜面のためアイゼン行動とするが、グズグズで腿まで潜り、まったく進まずに不安を覚える。幸い雪はすぐに安定し単調な脛ラッセルとなった。JP近くなると更に雪が締まってきて、歩くのが楽になった。晴れ渡ったJPでペテガリ岳を眺めながらしばし秤にかけるが、まだ中ノ岳越えも待っているのので、ペテガリ岳を背に歩き出す。ペテガリ岳には、またいつか、登るときもあるだろう。

中ノ岳までは時間をかけながらも比較的順調に進んだ。なんだ、これならペテガリ岳を



登っても良かったかな、と思ったのも束の間、片側が切れ落ちた先鋒が突如として現れた。えーっ、これ登って下りるの～！？緊張しながら無事通過、しかし緊張による疲れから最低鞍部付近で力尽きてテントを張った。

4月14日(日)：晴れ

前夜、天場で電波が通じたためタクシー会社に電話したが、林道ゲートまでは入れない、下りたら連絡くださいとあっさり断られた。仕方ない。冬尾根の頭は、何年前かに登った尾根だ。ここで日高主稜線のルートピース

の一部が埋まった。感慨深い気もするが、それよりも長い林道歩きが気になる。尾根の下りは一部急なところもあるためアイゼンで歩くが、下りとはいえ途中からズボズボ埋まって

疲れることこの上ない。下部は雪が切れて笹が出ており、尾根を外して右往左往したりする。それでも二俣には2時間半ほどで降り立った。さて、沢を渡ろうと眺めると、なんと、対岸にトレースがある！どうやら山スキーでやってきて、笹藪で引き返したらしい。ありがたくトレースを使わせてもらおう。最後の渡渉も靴を履いたままなんとかこなし、神威山荘には予定よりもだいぶ早く到着した。さて、どうするか。小屋に泊る予定だったが、今晚の低気圧の通過でせっかくのトレースが消えてしま



まうと、明日のラッセルが辛い。ここは天気の良い今日のうちに頑張るしかないだろう。意を決して歩き始めた。最初は1時間ごとだった休憩がじきに30分毎となり、最後には15分くらいで立ち止まってはマメのできた足を引きずり、ようやく電波のつながった最終人家近くの道路ではザックを放り出して座りこんだのだった。

【行程】4/10 林道ゲート 14:45～東尾根登山口 c1 18:45

4/11 c1 3:30～ポンヤオロマップ岳 11:10～c1330 付近 c2 13:30

4/12 c2 4:40～p 1518 8:30～JP 手前鞍部付近 c3 13:40

4/13 c3 4:30～JP 6:15～中ノ岳 12:25～最低鞍部付近 c4 13:50

4/14 c4 3:50～p 1493 6:15～冬尾根の頭 6:40～二俣 9:10～神威山荘 9:45～林道ゲート 14:05～最終人家 16:30